

61-1

183

61-1

昭和61年度

環境庁委託業務調査報告書
アスベスト環境影響基礎情報整備調査

昭和62年3月

財団法人・労働科学研究所

昭和61年度
環境庁委託業務調査報告書
アスベスト環境影響基礎情報整備調査

目 次

I. 委託業務の目的・内容

II. 調査の結果

① 流通経路等の基礎的な情報の収集整理	1
② 建築物等の解体作業時の環境に与える影響の調査	9
③ アスベスト製品の製造・加工工場におけるアスベスト排出 の実態及び周辺環境におけるアスベスト粉じんの調査	16

調査担当者

財団法人 労働科学研究所・労働衛生学研究部

木村 菊二

中明 賢二

前原 直樹

伊藤 昭好

島影 喜久子

6. 測定結果の考察

測定1について。測定位置により、また測定時刻によって若干の違いが認められる。この理由は測定時における気象条件とくに風向、風速等の相違によるものと推定される。しかしその濃度はほぼ $2 \sim 10 \text{ f}/\ell$ 程度で解体現場に比較的近い位置でも著しい高濃度というほどの値は認められなかった。この理由は、解体が湿式で行われているために発じん量が比較的少ないことによるものと推定される。

測定2について。建物の入り口近く等では 数 $10 \text{ f}/\ell$ というかなり高い濃度が認められた。建物から約 70 cm 離れた敷地境界線の近くでも $10 \text{ f}/\ell$ を超える値が検出された。この理由は天井の解体、とくに天井のスレート板を破砕する際にかなり著しい発じんが認められ、この粉じんが周囲へ流出しているものと推定される。

吸音板？

参考までに天井に使用していたアスベスト板を粉砕機によって粉砕しながら発生した粉じんを発生源近くで捕集して計数を行った結果は次のようである。（捕集した位置の濃度は通常の作業によって発生する程度である。）

注 1 アスベスト粉じん濃度 $\text{f}/\text{m}\ell$	注 2 アスベスト以外の粉じん濃度 $\text{個}/\text{m}\ell$
18 ~ 41	3167 ~ 4891

注 1 : クリソタイルと推定される

注 2 : 粒径 $0.5 \mu\text{m}$ 以上の粒子

割合は？

